

## 令和6年度 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年7月10日(水) 14:30より

場所 大阪府立清水谷高等学校 校長室

出席者

協議会委員	柴 浩 司 様	出席
	須藤 隆二 様	出席
	西田 清盛 様	出席
	近藤 清子 様	出席
	野原 久美 様	出席
	大野 広 様	出席
校長	日笠 賢	出席
事務局	林 拓 磨	出席
	太 居 豊	出席
	納江 良子	出席
	高田 雄	出席
	網 真明	出席

### 1.委員紹介

### 2.校長挨拶

### 3.会長選任

互選により、柴 浩司様を会長に、須藤 隆二様を副会長に選出。

### 4.会長挨拶

会長の柴 浩司様よりご挨拶

### 5.令和5年度学校経営計画及び学校評価について

校長より資料に基づいて説明

- ・前年度の学校運営協議会にて承認を受けているものだが、空欄であった3(2)の項目である、国公立大学への進路希望の現役合格率(34%)、国公立大学の合格者数(18.4%,49名)の実数と自己評価について説明。

### 6.令和6年度学校経営計画及び学校評価について

校長より資料に基づいて説明

- ・中期目標3(2)ア※のR5年分の進路実績データを追記
- ・3.本年度の取組内容及び自己評価の3(2)の評価指標にR5年分の進路実績データを追記

### 7.令和6年度の進捗状況について

校長より資料に基づいて説明

- ・1年生の国語の授業では積極的に反転授業を取り入れている
- ・大手前高校・夕陽丘高校と3校合同での教員研修を実施している
- ・校長・教頭による授業見学時期に合わせて、教員間で授業改善の取組を実施する予定
- ・7/26より、生徒26人がニュージーランドへのホームステイに出発
- ・性の多様性に関する教職員人権研修の実施報告

- ・第1回いじめアンケートの結果対応について報告(必要な生徒と担当教職員が面談などして、いじめ事象はないことを確認済み)
- ・校則を今の清水谷高校にあったものに見直しを始める。まずは教職員の認識を合わせ、その後に生徒、保護者との連携しながら、時間はかかるかもしれないが、丁寧に進める
- ・マッスル株式会社の代表取締役社長や、毎日新聞の編集委員などの外部講師を招いて、生徒のキャリア意識が高まるように工夫している
- ・今年度の国公立大学への進学希望者数は昨年度よりは少ないが、希望する進路へ進学できるように丁寧な指導をしていく
- ・関西外国語大学より実習としてアメリカ人大学生とウクライナ人大学生の外国人留学生2名が4週間来校し、生徒と様々な交流ができた
- ・広報の一環として校長ブログに力を入れて昨年度比1.5倍、1昨年度比3倍以上書いている
- ・職員室を改造し担任団ごとの座席にして、教職員間のコミュニケーション向上を図っている

※委員よりご質問およびご意見(→学校側)

- ・制服以外に、トランスジェンダーへの対応状況はどうなっているか
  - 本人の希望を聞きながら、体育の着替え場所や健康診断への対応など行っている
  - 体育のメニューは男女別になっているが、それについても本人と相談しながらどちらかに参加してもらっている
  - 宿泊行事への対応も、本人の希望を聞きながらできる範囲で行う
- ・ケースバイケースで本人や保護者との対話を丁寧にすることで進めていくのが良い
- ・今年の1年生は1クラスが増えたが、生徒の様子は変わったか
  - 全体的な雰囲気は変わらない
  - 1年生の段階で国公立大学を志望している生徒が、例年よりも多い
  - 部活動加入率も上がっている
- ・部活動と学習の両立をさせるための学校としてのしぐみはあるか
  - 定時一斉下校日を徹底している
  - 真面目にやっている生徒は非常に忙しいと感じているかもしれない
  - 遅くなるクラブもあるが、最終下校時間を設定したり、部活動をしない日を設定したりして調整している
- ・教員を目指す大学生の中にも、部顧問を希望しない学生が増えているため、部活動のあり方については考えていく必要がある
- ・授業の受け方とテスト1週間前の部活動のない期間の過ごし方などを充実させると良い
- ・部活動顧問も生徒の成績に気をつけたり、担任も生徒の部活動の様子などに気をつけたりなど、すべての先生が生徒を全体的に見ていくと良い
- ・DXハイスクール指定されて取り組んでいることは何か
  - 予算のうち、7割は情報の充実として情報Ⅱをより高度な授業にするために使用し、3割は探究授業の充実として施設整備に使用する
  - パッケージで企業に任せるのではなく、首席が学校に適したものを個々に検討して購入している
  - 高小連携として小学校の生徒を招いてマイクラフト大会を計画している
  - 大学の情報系学部との高大連携や他高校との連携も検討中である
- ・学校説明の実施時期の見直しについて
  - より中学校のニーズに答えられるように、学校説明の時期を見直した
  - 中学校から招待されたものについては、可能な限り出席するようにしている

- 6月末～7月頭に中学校で進路調査を実施するので、6月の学校説明会は少し時期が早いかもしれない
- ・中学校でも夏に学校説明会などに参加し、夏休みに実際に学校に行ってみるよう保護者に進めている
- ・DX ハイスクールの情報Ⅱに期待しており、充実させてほしいが、全員受けている情報Ⅰの内容についても充実させてほしい
- ・国際交流で海外研修に参加できる生徒は限定されるので、昨年度のオーストラリアの高校生の受け入れや、今年度の関西外国語大学の外国人留学生グローバルインターンシップを受入れる様な全校生徒が国際交流できる機会を増やしてほしい
- ・部活動や自治会活動だけではなく、普段の授業を通して非認知能力を育成する意識を持って取り組んでほしい
- ・教職員の長時間勤務を減らすだけではなく、教職員がこの職場で働いて得るものがあると感じられるような職場づくりをしてほしい
  - PTAの組織改編やPTA便りの電子化、紙の生徒手帳の廃止など仕事を精選して不要な仕事を止めて、実際に仕事を減らし、教職員が子どもの成長のためにじっくり向き合えるように、また、教職員間での仕事量の不公平感が減るようにこれからも努めていく
- ・国公立大学の進学については、最初から第一希望を決めていた。塾に行かず、学校の授業のみで希望学部に進学することができた。講習も内容が充実していて非常に良かった。講習には定員を設けずに希望者が全員受けられるようにしてほしい
  - 人気の講習にはどうしても定員が生じてしまう。動画配信で対応しているが、教員も生徒もライブ感を大切にしているのか、なかなか動画配信の希望者は増えない。
  - 定員を設けないように努力していく
- ・講習中に部活の音が邪魔になるケースがあった。講習を受けている生徒と受けていない生徒をゾーン分けして、講習に集中できる環境づくりをしてほしい
- ・清水谷高校のPTA規約や制服の変更をモデルにしている中学校があり、清水谷を誇らしく思った。
- ・PTA規約が変わって初年度であり不安も大きかったが、良い雰囲気を進めることができている

## 8.スタディーサポート結果及び76期生進路状況について

### 進路指導主事の網より資料説明

- ・国公立大学進学者が年々増えてきている
- ・スタディーサポートは経年変化の見やすいテストになっているが、少子化に伴って清水谷高校の学力層が変わってきていることが分かる
- ・共通テストの内容も年々変わってきていることや、学力層が変わっているのに国公立大進学者が増えていくこと、大学の合格最低点が下がっていることなど複数の要因が絡まっており、不透明で見立ての立てにくい状況にある

### ※委員よりご質問およびご意見

- ・スタディーサポートの経年変化はどうか
  - 学習時間は2年生に進学すると減少し、到達度は大きく変動しない
  - 高校に入ってから学習時間を調べたいので、4月末に生活習慣調査を実施している
- ・国公立大学の進学者数が多いのはなぜだと考えるか
  - 私立大学の定員が減らずに合格最低点が下がり合格しやすくなり、教育課程の変更で生徒が安全策を取って早期に合格した私大に流れる中で、国公立大学の後期試験まで粘る生徒がいたことと合格国公立大学も合格最低点が想定より下がったことが、功を奏した
- ・最後まで粘る生徒が多いということは、生徒と教員間での信頼関係によるものである

- ・自分の進路希望を貫く浪人生がいることは誇らしいことである
- ・子どもは遠い将来のことは想定しにくい中で、清水谷は押し付けではなく先のことを見せてくれる先生方が多いように感じており、生徒が最後まで粘る原動力になっていると考える

## 9.次回連絡

- ・第2回の日程確認